

(1) 「△△五斗天平五年七月十四日
・「△△郷長丸子△△」

(266) × 30 × 6 039

(2)



(3) 「△△田△△」△月×

(109) × (21.5) × 0.5 061



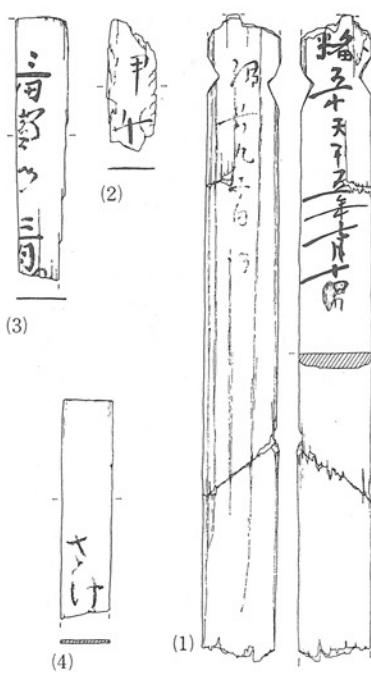
(4) 「△△け」

(91) × (20.5) × 1 061

(1)(2)については、国立歴史民俗博物館の平川南氏に判読していた
だいた。(3)(4)は、折敷板の断片に文字の書かれたもので、類例は市
内でも鶴岡八幡宮境内など何ヵ所かで出土している。

9 関係文献

鎌倉市今小路周辺遺跡（御成小学校内）発掘調査団『IN-III通信
5』（一九八五年）
(河野真知郎)



神奈川・鶴岡八幡宮境内

研修道場用地遺跡

091

所在地 神奈川県鎌倉市雪ノ下

調査期間 一九八一年（昭56）八月～一九八二年九月

発掘機関 鶴岡八幡宮境内発掘調査団（団長・大三輪龍彦）

発掘担当者 斎木秀雄

遺跡の種類 寺院跡

遺跡の年代 一二世紀末～一六世紀

遺跡及び木簡出土遺構の概要

鶴岡八幡宮は康平六年（1063）、源頼義が鎌倉由比郷に、前

九年の役の戦勝を記念し勅請した石清水八幡宮が前身

であり、治承四年（118

○）鎌倉に入った源頼朝が現在地、小林郷北山に遷した。



（横須賀）

もとは神仏習合により、
鶴岡八幡宮寺と称し別当職
等も置かれていたが、明治

元年（一八六八）の神仏分離令を受け境内の大塔以下の諸堂と共に仏職も廃止された。

調査地点は鶴岡八幡宮境内の東側境界線（土塁）内側、馬場道北一帯に位置し、豊臣秀吉の指示により天正一九年（一五九一）に作成された謂ゆる「造営目論見絵図」では「やなぎ原」と記されている辺である。

調査では一二世紀末～一五世紀にかけて四期にわたり構築された版築地業面が確認され、それらの版築面から掘立柱建物、半地下式建物（方形堅穴建築跡）、井戸、溝、土壙、土塁等が検出され、多量の中国産陶磁器、瀬戸窯製品、常滑窯製品、かわらけ、仏殿あるいは仏像に伴う莊嚴具を含む漆製品、人形、僧形八幡神坐像、将棋の駒等を含む木製品が出土している。木簡、墨書き陶磁器、木片等が出土したのは検出された土塁に伴う内側（境内側）の溝のうち第二期の溝、第三期の溝である。それぞれの溝の年代は第二期が一四世紀中葉～一五世紀中葉、第三期が一三世紀中葉～一四世紀初頭と考えられる。墨書き陶磁器類で判読できるものは「仏」「土」「漆器皿」は「万」である。

8 木簡の积文・内容

(1) 「ヤマクチヨリ

タヒウ □ タテノ

(166)×(42)×1 081



(2)



- | | |
|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(2)</p> <p>「□□□○□□○」
〔穿孔〕
〔穿孔〕
〔今カ〕</p> | <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「上下内外内宮」 「□□」 「□□」
〔三カ〕 |
|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

154×(43)×1 081
192×(8)×1 081

この他に「梵字（ギリーグ）南無阿弥陀仏」と書かれた板碑伝（最大288×25×2）四点、墨書き木片一六点、札状木製品一〇点が出土している。
鎌倉市鶴岡八幡宮境内遺跡発掘調査団『鶴岡八幡宮境内発掘調査報告書』（一九八三年）
(斎木秀雄)

9 関係文献